

ソーシャルワーク教育にフォトボイスを用いた自己省察を促進する学習プログラムの 実施と評価

ーフォトボイスの内容分析を中心にー

十文字学園女子大学 氏名 大山博幸 (06129)

フォトボイス、自己省察、自己覚知

1. 研究目的

ソーシャルワーク教育の主たる目的の一つに、ソーシャルワーカーの専門的自己の発達 (development of professional self) が挙げられる。この専門的自己の発達は、当該ソーシャルワーカーの自己省察 (self reflection) で獲得された自己覚知 (self awareness) によって促されていくと考えられている。欧米圏でのソーシャルワーク教育においてこのような自己省察を促進する教育方法は多数報告されており、一般的にはジャーナリングのプロセスが学習者の内省を促すといわれている。そこで、本研究では、フォトボイスを活用して自己省察を促進させる教育方法に着目した。Cray Mulder & Aubrey Dull (2014)、Cray Mulder (2014) は、このフォトボイスをソーシャルワーク教育の手法として実践・報告しており、フォトボイスをコミュニティの問題ではなく、学習者の内省に焦点を当て、教室内で用いた。彼らは、フォトボイスが学習者自身のナラティブな記述 (ジャーナル) だけでなく、写真という視覚刺激が加わることで学習者の創造性と多様な表現が広がることに注目した。本研究では、Cray Mulder & Aubrey Dull (2014)、Cray Mulder (2014) の方法を参考に、ソーシャルワーク教育において、学生がソーシャルワーク (もしくは福祉実践) についての自分の態度や価値観を学生相互に探求することができる内省的な手法としてのフォトボイスの効果を検証・評価することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

令和5年度において、研究者が所属する四年制女子大学人間福祉学科所属で科目ソーシャルワーク論Ⅲ (ソーシャルワークの理論と方法) 及び人間福祉演習 (ゼミナール) を履修する学生69名を対象とした。当該授業内で学生に、あらかじめ作成された3つのプロンプト (「あなたをソーシャルワーク (もしくは福祉・対人援助) の分野に駆り立てるもの、もしくは導かれたきっかけは何ですか?」「ソーシャルワーク (もしくは福祉・対人援助) の分野で、あなた自身が求めているものは何ですか? もしくは、あなたは何を実現したいのですか?」「あなたがクライアントとの援助関係を生きていくうえで重要なことは何でしょうか」) に対する回答として、プロンプトに対応する3つのフォトボイス (人物以外の写真とその写真に対する物語 (ナラティブ) を記述したもの) の作成を求めた。後日、作成したフォトボイスを授業内で5、6人一組に分かれて、相互に共有する機会を設けた。共

有終了後、学生にフォトボイスを作成し他者と共有したことに関する調査票による調査の実施を求めた。調査票は ANTHONY M. GRANT、JOHN FRANKLIN and PETER LANGFORD(2002)の SRIS (THE SELF-REFLECTION AND INSIGHT SCALE) (20項目、6:まったくあてはまる~1:まったくあてはまらないの6件、研究者が日本語訳) 及び、筆者が独自に作成したフォトボイスの報告をして他の学生との話し合いやそこから得た気づきや変容に関する質問 (5項目、4:あてはまる~1:あてはまらないの4件)、フォトボイスの作成と報告の経験に関する自由記述、対象者の年齢をたずねる質問で構成した。後日研究者が成果物としてのフォトボイス作品の内容分析・解釈及び調査票による結果の解析を行った。

3. 倫理的配慮

対象となる科目の受講生にあらかじめ本研究の目的を書面及び口頭にて伝え、研究協力の同意を確認できた学生に対して調査を実施した。なお本研究は、研究者が所属する大学内の研究倫理審査委員会より承認を得た(2023年11月28日承認)。本報告に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はない。

4. 研究結果

調査に同意を得た51名を対象とした結果を得た。学生により様々なフォトボイス作品が作成された。学生のソーシャルワークもしくは福祉に対する考えや態度、価値観が学生自身の人生経験との関連で深くかつ広く表現された作品がみられた。しかしながら作品の内容には個人差がみられた。調査結果から、SRISの結果においては、研究者によりフォトボイス作品が優れていると解釈・評価された学生は洞察(insight)因子の得点が他の学生に比べ高く有意な差がみられた。自由記述においては、作品作成によって自分自身のソーシャルワークもしくは福祉に対する考えや態度、価値観の気づきや再認識が生じたこと、他者との作品共有によって他者のソーシャルワークもしくは福祉に対する考えや態度、価値観を知る機会となったこと、それによって自分自身の態度や価値観が対象化されたことなどの記述が複数みられた。またテキストマイニングの結果から特に、「写真」と「感じる」の抽出語における強い共起関係がみられた。

5. 考察

フォトボイスを用いた本学習プログラムによって学生の省察的な学習が促進されたことが示唆された。本学習プログラムは体験学習の形態であるため、学生の主体的な学習プロセスを引き出すことができた。画像と文章との組み合わせにより作成されるフォトボイスは学生に創造的な表現を要求することになり批判的思考や認知的プロセスのみならず感情的反応やそのプロセス(affection process)にかかわる学習が促進されたと思われる。しかしながら、フォトボイス作品の内容には個人差があり、それに対応して省察的な学習経験にも差があることが示唆された。また、フォトボイス作品をループリックにより評価することにおいては課題があった。